

1

とある企業のトレーナー（アシリートを支援する者）の瀬川由衣は、バレエ団に外向し、世界的ダンサーの高野を担当して、公演を成功させるよう指示された。高野は気難しかったが、由衣は、高野には選ばれし者もつ「王者の才能」があると感じた。公演は成功し、その後、高野は渡欧し、由衣は会社を辞めて新たな道を歩もうとしている。次は、二人の最後の別れの場面である。これを読んで、①～⑥に答えなさい。

注意① 解答はすべて別紙の解答用紙に記入しなさい。
注意② 字数が指定されている設問では、「」や「」も一まず使いなさい。

「俺は瀬川に言えなかったことがあつて。……この二ヶ月、ずっと気になっていたことが」

「何でしょう？」

「王者の才能って言葉」

高野の隣に座ると、小さな声がした。

「あれが心に刺さつて。一緒にいた間、俺は瀬川が求める王であれたのだろうか。④その王者の才能ってやつが、俺にはあつたんだろうかと、ずっと思っていた」

「どうしてですか？」

非難しているような口調になったせいか、「どうしてって」と高野が戸惑っている。

「公演後に、あつさり他の人に俺を引き継いで」

「だって後任の人は私なんかとは違う、ものすごく実力ある人ですよ」

〈中略〉

「たしかに後任の彼はいいよ。ただ、瀬川は自分が見込んだ相手にはとことん食い下がっていくタイプだと思つたから、てつきり俺は見限られたのだと」

見限るはずなどない。それどころか、ほっとしている。彼らがついでにいれば、高野が踊れる時間はまだ延びるはずだ。

「そんなこと、ひとかけらも思っていないかつたです」

「俺がいる世界は得点が出るわけでもないし、オリンピックもない。瀬川には物足りなかつたのかもしれないな、と。だからわざわざ来てくれて、うれしかったよ」

私……、と言つたとき、由衣は黙る。

あの公演のあと、この先も一緒に仕事をしたいと願つた。でも今はその思い以上に、この人の力を支える広い知識と技術が欲しい。「もっと大きくなりたいたんです。メンタルもフィジカルも支えられて……栄養士や整体師や、そうした人たちと連携していくマネジメント力もしっかり持つて。身体のことは何の心配もせず、クライアントさんが競技のことだけを考えられるようにしたい。悔しいですけど、高野さんの今の担当者はそれを全部持つてる。私もそうなりたい。そんなトレーナーになりたい」

急いでくれよ、と高野がささやく。

「俺の現役が終わる前に」

「終わりませんよ、高野さんは」

懂れをこめて、由衣は高野を見つめる。この人が舞台にいる姿をいつまでも見たい。⑥そしていつかまた一緒に仕事をしたい。

王者の才能って言葉、と高野がくり返した。

「ずっと考えてただけで……それは生まれながらの身体能力とか適性だけではないよ、きつと。もちろんそれがないとトップには立てないけれど、それ以前に必要な才能がある」

「なんですか、それは」

「夢中になれること」

高野がしつかりとした声で言うと、見つめた。

「好きになれること。一日中、そればかり考えていても苦にならず、何時間やつてもまったく気にならないってこと」

「好きになれること、ですか」

高野が深くうなづく。

「走つてみた、投げてみた、踊つてみた。そうしたらうまくやれたから続けてみた、結果、トップクラスになつていた。そういう人って案外多い。でも、自分がやっていることが死ぬほど好きかと言えは、そうでもない。むしろ嫌いで飽き飽きしてるけど、人より上手にできて、金や⑤栄誉が得られそうだから、やっている。そういう人が」

「いるんですか？」

「いる。意外に多い。だけど、そういう人はすぐにやめてしまう。高みを④極めようとはしない。どれほど才能に恵まれても、自分のしていることが好きになれなければ、王にはなれないよ」

だから、と高野の声が⑥熱を帯びた。

「夢中になれること、好きになれること。それこそが王者の才能だと俺は思う。そしてそれは瀬川、他人のなかにあるわけじゃない。」

①王者の才能は、瀬川のなかにもあるんだよ」

うつむいたら、目の前に手が差し出された。

その手を握れば、自分も高野と並び立つ王であるかのようにうだ。

そつと高野の手を握ると、熱く、ゆるぎない力が伝わってきた。

出典 伊吹有喜『カンパニー』

（注）クライアント…お客。依頼人。

① ———の部分③・④の漢字の読みを書きなさい。

② 「⑥その王者の才能ってやつが、俺にはあつたんだろうかと、ずっと思っていた」とあるが、高野がこのように思っていた理由として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 由衣が公演後、実力のある担当者を引き継いだので、支えが必要ほど頼りないと思われていると感じたから。

イ 由衣が公演後すぐ担当をやめたので、自分には由衣を引きつけるような能力がないのだと感じたから。

ウ 由衣が公演後簡単に担当を退いたことで、バレエには才能をはつきりと確かめる手段がないと思ひ知つたから。

エ 由衣が公演後に新しい担当者に任せたことで、自分の現役が長くないことを思い知り、今後について考えたから。

③ 「⑥そしていつかまた一緒に仕事をしたい」とあるが、この由衣の心情について説明した次の文の□□に入れるのに適当なことばを、十五字以内で書きなさい。

高野を尊敬しているが、一緒に仕事をするには今の自分では充分ではないので、□□ことでトレーナーとして成長し、

高野の役に立つときがくることを願う心情。

④ 「⑥熱を帯びた」のここでの意味として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 優しい口調になつた

イ 怒りの感情がこもつた

ウ あせりを含んだ

エ 興奮した雰囲気になつた

⑤ 「①王者の才能は、瀬川のなかにもあるんだよ」とあるが、このように言つた高野の意図について説明した次の文の□□に入れるのに適当なことばを、三十五字以内で書きなさい。

他のトレーナーと比べ自己を低く評価している由衣に対して、□□と思つたから。

⑥ この文章の表現の特徴について説明したものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 由衣と高野の会話をテンポよく続けることで、二人の信頼しあう関係性を表現し、地の文では二人の視点から見た互

いの様子を描写して、場面に奥行きを与えている。

イ 由衣と高野の会話を前半では緊迫感を持たせ、後半では穏やかな雰囲気で描くことや、由衣の表情や態度、心情を詳しく説明することで、展開の盛り上がりや表現している。

ウ 会話部分において、高野の話し方や声の調子を描くことで、高野と由衣の気分の違いや高野の心情の変化を、由衣の視点でありつつも客観的に描写している。

エ 会話部分において、由衣は敬語、高野は敬語を使わずに話す様子を描くことで、二人の間に厳然として存在する上下関係と心情的な距離を読み手に示している。

受験番号

算用数字

令和四年度 岡山学芸館高等学校 選抜 一期入試【二月二十八日】 問題（国語）

2

次の文章は、農業史研究者の藤原辰史が書いた文章である。これを読んで、①～⑥に答えなさい。

ところで、少しだけ話を変えると、最近食品ロスがあまりにも増え、世界中で問題となっている。食品は、食べられるのに、どんどんゴミ箱に捨てられる。パックに入ったまま、水分もたっぷり含まれたまま、化石燃料を用いてどんどん燃やされる。水分の多いゴミがどれほど収集者たちの腰を④イタめているかについては、藤井誠一郎『ごみ収集という仕事——清掃車に乗って考えた地方自治』（ヨモズ、二〇一八年）という優れたエスノグラフィーを読んでいたきたい。ホテルの宴会では、ソースのたっぷりかかったローストビーフも、トロトロのコーンスープも、まるでそれが以前生きものではなかったかのように、捨てられていく。凄まじいエネルギーロスが日本では毎日焼却場で繰り広げられている。

とりわけ経済先進国の人びとは、しばしば、このような状態に対して、人間の倫理を問題にする。食べものを捨てるなんて、人間の風上にも置けないと、怒りの対象になる。私もこれまで何度も批判および自己批判してきたし、それを撤回する予定はいまのところない。

けれども、食品ロスの問題を、ひとりひとりの心がけの問題に落とし込む風潮には、大いに疑問を感じる。そもそも、食べものは人数に対して「あまる」ことが前提の行為ではないだろうか。問題は、その「あまり」をできるかぎり社会や自然に再び流す受け皿システムの弱さではないだろうか。食べものの経済が⑥コショウしているのではないだろうか。

（中略）

私も大人になってようやく「あまり」の魅力に気づき始めた。ちょうど、木もれ陽のように、料理してできたものは、その食卓を囲む人たちの推定可食量よりもちよつと多めに準備されるのが本来的ではないだろうか。もちろん、それが不可能な経済状況や政治状況にある人びとが、つねにその不足に悩んでいることはいうまでもない。あまる食べものどころか、満たす食べものさえないことが、④飢餓問題である。この現実を厳然として存在する。だけれども、どうして、地球の成員が食べて生きていけるほどの食べものが生産されているのに、地球上の八億の住民が飢えるのか。それは、経済先進国なり経済先進地域なりがその剰余の「もれ」と「持ち帰り」と「配分」というシステムを作り上げず、ひたすら過剰な衛生観念のもとに新品のまま捨てるという不完全かつ不健全なシステムしか作ることができなかったからではないのか。

食べものをA化するとは、食べものをB化することであり、食べものが値段と一対一の対応をすることである。けれども、その場合、食べものが作られすぎると値段が急落するので、市場に⑥廃棄処分になる。この剰余は、飢えた人びとには届かない。

けれども、もしもその処分される農作物が、商品になる前に、市場とは別のルートで直接、調理場に運ばれ、その料理が直接、人びとによってほどこされるのであれば、もしも、その調理場では大量のカレーや豚汁が作られて、たまたま近くに立ち寄った人にも無料で振る舞われるとすれば、いや、そもそもすべての食材が商品化を断念して、直接、無料食堂に運ばれるような国があれば、その国にももちろんレベルの高い優れたレストランがあつて、そのレストランは、この無料食堂のあまりものの食材を購入するとすれば、それでもあまったものは、燃やすのではなく、家畜に食べてもらったり、土壌微生物に食べてもらったりできるとすれば、社会の競争からまれてた人たちがふらつと立ち寄れる食べる場所が増えるとするれば、⑤いったいそれはどんな社会だろうか。

別にそう言ったからと言って、政府広報のポスターのように、人びとの笑顔が突然溢れだしたり、希望に満ち溢れたり、太陽光線が若者を照らしたりはしないだろう。ただし、自殺も、過労死も、食品ロスも、飢餓も、減少することは否定できない。弁当を作れない親の罪悪感も、シングルペアレントの罪悪感も、栄養たっぷりの朝ごはんを作れない親の罪悪感も、本来抱く必要のないはずのこれらの感情もまた、不必要な社会になることも間違いないし、それゆえに女性の社会進出も、女性の閣僚の数も、女性の大学教員の数も、

増加することは想像できるだろう。家庭の台所に特定単数の性のみを貼り付けない、という未完のプロジェクトや、食の前の平等という歴史上ほとんど例をみない事業が人間の内面の何を変ええるかは、シミュレーションに値することだと思ふ。

出典 藤原辰史『縁食論——孤食と共食のあいだ』
（注）エスノグラフィー：人間が社会で生活する上でどのように行動するかを、対象の地域に直接出向き詳しく調査をし、記録すること。
シングルペアレント：父親、母親のどちらかと、子供からなる家庭のこと。

① ———の部分②・⑥を漢字に直して楷書で書きなさい。

② 「④飢餓問題」とあるが、筆者が考える飢餓問題の原因として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
ア 食べものは、量が多いと値段も落ちていくので、できるだけ一定の価格を保てるよう、生産量を調整しているから。
イ 地球上の成員が食べて生きていけるだけの食べものが生産されていても、それを配送する流通網が未発達だから。

ウ 世界的に賞味期限などの食品衛生管理に過度に敏感になり、基準を外れたものは新品でも廃棄処分になっているから。
エ 食べものの剰余を活用する適切な仕組みを作り上げることなく、余った食品をただ処分してしまっているから。

③ A、Bにそれぞれ入れることばの組み合わせとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
ア A 金額 B 数値 イ A 商品 B 数値
ウ A 習慣 B 商品 エ A 配分 B 商品

④ 「④廃棄」と熟語の構成（組み立て）が同じものは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
ア 採光 イ 実施 ウ 競争 エ 個性

⑤ 「⑤いったいそれはどんな社会だろうか」とあるが、筆者が理想とする社会を説明した次の文の□□に入れるのに適当なことばを、文章中から六字で抜き出して書きなさい。
□□が実現した社会。

⑥ 「無料食堂」について、先生と二人の生徒が話しています。
X、Yに入れるのに適当なことばを、Xは十字以内で書き、Yは文章中から十三字で抜き出して書きなさい。また、Zに入れる具体例として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

先生 筆者が提案する「無料食堂」とは、どのような仕組みですか。
孝弘 作られすぎてX食堂のことです。でも、無料食堂があるとなぜ食品ロスが解消されるのでしょうか。
早苗 食品ロスの問題をYとせずに、社会システムから解消できるからじゃないかしら。
先生 そうですね。たとえばZなども、社会システムを変えることで問題を解決しようとしている例だと言えるでしょうね。

ア 多様な生き方を認めるために、現代の人権問題を調べて知識を深めること

イ 大量生産、大量消費の流れを断ち切るために、自分で修理できるものは修理すること

ウ 地産地消を推し進めるために、地元産の野菜を選んで料理をすること

エ 海洋プラスチックごみ問題を解決するために、スーパーのレジ袋を有料化すること

3 次の文章は、松尾芭蕉、紀友則、高浜虚子の俳句や和歌を引用しつつ書かれた解説文である。これを読んで、①～③に答えなさい。

受験番号
算用数字

俳句には八千もの季語があると書きましたが、その中には古くからある季語もあれば、比較的新しい季語もあります。

例えば、「雪」「月」「花」などは古くから和歌の題材として詠まれ、それが俳句に受け継がれて季語になったものです。数ある季語の中でも、もともと伝統的な季語と言えるでしょう。同様に「ほととぎす」や「蛩」、「梅」、「紅葉」なども、古歌の時代から詠み継がれてきた歴史のある季語です。

一方、「ブル」や「サングラス」などの季語は、当然江戸時代にはありませんでした。近代に入ってから、俳句の季語として定着したものです。「原爆忌」や「終戦日」なども、当然、太平洋戦争後にできた新しい季語です。

逆に、時代とともに使われなくなつてゆく季語もあります。例えば「敷入」という新年の季語は、昔、奉公人が正月十六日に休暇をもらつて親もとへ帰ることを言いましたが、こうした習慣のなくなった現代では、もはや消滅しつつあります。季語は、時代とともに変遷してゆくものなのです。

そうした中であつて、一千年以上前から日本文学の中心をなしてきた「雪」「月」「花」などの伝統的季語は、その中にさまざまなイメージを内包していると言えます。それを、「季語の本意」と言います。

例えば、次の句はどうでしょうか。

さまざまの事おもひ出す桜かな
松尾芭蕉
『笈の小文』

「桜」や「花」は、日本人が最も愛してきた季語と言ってもよいでしょう。現代で言えば、入学の季節に咲くその花は、人生の節目節目を思い出させる花になっています。また、散りゆく桜の美しさは、深い武士道的な生き方の象徴になっていた時代もあります。桜の花は、どこか人間の生と死を思わせるところもあるでしょう。平安時代の歌人・紀友則は『古今和歌集』の中に、

③ ひさかたの光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ

という和歌を詠んでいます。「こんなに光がのどかな春の日にどうして穏やかな心もなく桜の花は散っているのだろうか」という意味の歌です。散る花を惜しむ気持ちは、時に人を狂おしくさせるものでもあつたのです。

こうしたことすべてが、「桜」「花」の季語としての本意です。芭蕉の句は、「桜」の本意を踏まえて鑑賞しなければなりません。おそらく芭蕉は、咲き満ちる桜の花を見ながら、これまでの人生を振り返り、さまざまな人との出会いや別れ、数々の忘れられない思い出を反芻しているのでしょう。

俳句がなぜ、たつた十七音で一つの世界を描けるかと言えば、季語がいま説明したようなさまざまな情報を内包しているからなのです。季語が雄弁に語ってくれるからこそ、十七音の短い詩の中に深い詩情を湛えることができるのです。⑥ 芭蕉の「桜」の句は、「桜」だからこそ成り立っているのであつて、「椿」や「柳」など他の植物に置き換えることはできません。このように、季語がびったり嵌っていることを、「季語が動かない」と表現します。

「桜」のように、季語の本意が濃厚にあるものはむしろ稀で、特に新しい季語にはまだ本意と呼べるほどのものはありません。季語の本意は、長い文学の歴史の中で培われてゆくものだからです。そうは言つても、それぞれの季語がある種のイメージをまとつて

いることは事実です。植物の季語を例に見てみましょう。

第2章の「取り合わせ」の説明の中で、

海女とても陸こそよけれ桃の花
高浜虚子
『六百五十句』

という句を例に挙げました。「桃の花」が、三月の女の子の節句に欠かせない花だということ、その鮮やかな桃色からも「海女」がまだ若い女性であることがイメージされる句です。

例えば、この句の季語を「チューリップ」に置き換えたらどうなるでしょう。「チューリップ」は、「さいたさいた」で始まる童謡の印象もあつてか、幼い女の子のイメージをまとつています。「チューリップ」では、「海女」があまりにも幼くなりすぎてしまうでしょう。逆に、「菊の花」に置き換えたら、ぐっと年配の女性が想像されてしまいます。「菊」は仏様に供える花というイメージを強くまとつている花だからです。

このように、⑥ 季語ひとつひとつがどんなイメージをまとつてい

るかを考えることが、俳句の鑑賞では大変重要になってきます。

出典 佐藤郁良『俳句を楽しむ』

(注) 原爆忌：原爆投下への慰霊の日。夏の季語。

奉公人：ここでは、他人の家に雇われて働く者。

反芻：繰り返し思い出して、考えること。

第2章の「取り合わせ」の説明：『俳句を楽しむ』の第2章のことで、引用

海女：海にもぐつて、貝や海藻などを採集することを仕事にしている人。

① 「ひさかたの光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ」について、次の(1)・(2)に答えなさい。

(1) 「しづ心なく」の読みを、現代かなづかいを用いてひらがなで書きなさい。

(2) 「ひさかたの」のように、あとに続く特定の語句を修飾するために置かれる語を何と言いますか。漢字二字で答えなさい。

② 「芭蕉の『桜』の句は、『桜』だからこそ成り立っている」とあるが、この説明として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 一語で咲き満ちて散りゆく情景を表す「桜」が句にあること

で、芭蕉が実際の桜をありのままに句にしたことがはつきりとわかるということ。

イ 生と死を想起させ、人間を感情的にさせる印象が共有されている「桜」は、芭蕉ほどの格の高い俳人でないとうまく使うことができないということ。

ウ 「桜」には、人生の節目や潔さ、散る花への人間の激しい感情など多くの意味が内包されており、その前提によつて作られた句であるということ。

エ 芭蕉のこの句によつて、人生を振り返る作品においては、「桜」という語を入れることは常識となり、「桜」のイメージが確立したということ。

③ 「季語ひとつひとつがどんなイメージをまとつているかを考えることが、俳句の鑑賞では大変重要になってきます」とあるが、俳句の鑑賞における季語に対する筆者の考えを説明した次の文のX、Yに入れるのに適当なことを、Xは十二字で文章の中から抜き出して書き、Yは十字以内で書きなさい。

古歌の時代から詠み継がれてきた季語に本意があるおかげで、Xを表現できていることから、季語の本意を踏まえることが俳句の鑑賞には必要である。また、高浜虚子の句における「桃の花」という季語を別の花に置き換える

とYが大きく変わつて俳句の意味合いも違つてくるように、伝統的季語ほど本意が強い季語の場合でも、

季語の持つイメージをとらえることは重要である。

4 四人の中学生が、節水をテーマとするグループ学習で、【資料Ⅰ】～【資料Ⅲ】をもとに話し合いをした。次の【四人の中学生の話し合い】を読んで、①～④に答えなさい。

【四人の中学生の話し合い】

千穂 日本では水道の蛇口から飲める水が出てくるけれど、世界の人口のうち、約三分の一の人たちは、安全な飲み水を使えないと、テレビのニュースで放送していたよ。今日は、節水をテーマに考えてみよう。

輝明 本校生徒に対して、毎年行っている調査の結果をまとめた【資料Ⅰ】を見ると、**X**。僕の家は、この前の台風で断水になったけど、ふだん節水していたから、そんなに慌てなかったよ。ここ数年、自然災害が多いからかな、全体として節水に対する意識が高まっていると言えそうだね。

大樹 それもあるし、【資料Ⅱ】を見ると、水資源を大切にしたいという理由から節水に取り組んでいる人が多いことがわかるね。昨今、社会的に水資源の問題がとりあげられているからだと思う。でも、一番多いのは、水道料金を抑えたいからという理由なのが、どうしてなのかわからないな。

弘美 水道料金は目に見えて節水の効果がわかるから、目標設定もしやすいのではないかな。経済的な理由は家族の協力も得やすいし、長続きしそうな理由で私はいいと思うな。

千穂 節水は、節電にもつながるそうだよ。例えば、マンションなどの高層住宅では最上階にあるタンクに水をくみ上げるために電力を使っているし、そもそも水道水をつくるためにも電力は使われているからね。

輝明 水道料金の節約になるだけでなく、節電効果もあるんだね。そういった節水のメリットを広めていくと、さらに多くの人が節水に対して関心をもつようになると思うけど、どうだろう。

弘美 うん。とにかく水は大事だから水を大切にしようって感情に訴えられるよりも、明確な節水の目的がわかるほうがいいと思う。私たち一人ひとりが生活の中で水の無駄づかいを意識することで、少しずつ改善されるはずだよ。でも、どんな場面でどんなふうになればよいのかな。

大樹 そうだね、僕が水を無駄づかいしないように気をつけているのは、【資料Ⅲ】にある**Y**だな。なぜなら、**Z**

① 「感情」とあるが、ここでの「感情」の対義語を漢字二字で書きなさい。

② 輝明さんの意見が論理的なものとなるために、**X**に入れるのに最も適当なのは、**A**～**E**のうちではどれですか。一つ答えなさい。

③ 話し合いにおける四人の発言の特徴について説明したものとして適当なのは、**A**～**E**のうちではどれですか。当てはまるものをすべて答えなさい。

④ 大樹さんの発言の**Y**、**Z**に入れるのに適当な内容を、**Y**はあなた自身が水を無駄づかいしないように気をつけている場面を【資料Ⅲ】**A**～**E**のうちから一つ選んで答え、**Z**は条件に従って六十文字以上八十文字以内で書きなさい。

ア 節水に取り組んでいる人の割合が最も増えたのは、2020年から2021年の1年間だとわかるね

イ 節水は必要ないと考えている人の割合は、年々減りつつも全体の1割程度いることがわかるね

ウ 節水した方がよいとは思いますがあまり取り組んでいない人の割合が、この4年間で16%増えているね

エ 節水をしている人と必要性を感じている人の割合は、この4年間で上昇して、合計で24%増えているね

ア 節水は自分の見聞きした情報をみんなで共有し、話し合いの内容を深めようとしている。

イ 弘美は他の人の発言を一度認めただうえで、その問題点を根拠とともに述べている。

ウ 大樹は資料から読み取れる情報について分析を加えるとともに、疑問点を提示している。

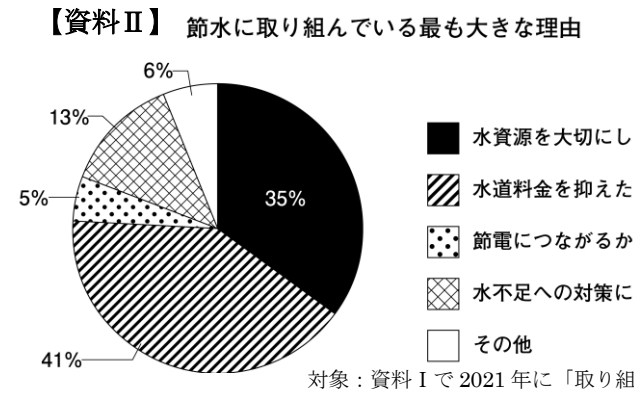
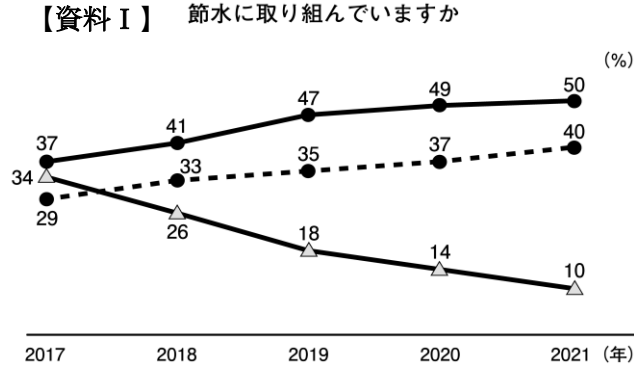
エ 輝明はこれまでに出了た発言をまとめて言い換え、話し合いを先に進めようとしている。

オ 弘美の発言に対して千穂が反論したため、大樹が二人の意見の共通点を説明している。

条件

1 二文に分けて書き、一文目に、**Y**で選んだ場面が無駄が生じる理由を書くこと。

2 二文目に、あなたが**Y**での無駄をなくすためにやっている具体的な取り組みを、「その無駄を防ぐ取り組みとして、」に続けて書くこと。



【資料Ⅲ】

生活の中で水を使う場面

ア 風呂に入るとき

イ 歯みがきをするとき

ウ 食器を洗うとき

エ トイレを使うとき

オ 洗濯をするとき

カ 植物に水をやる時